

# ダイコン畑の準備と種まき



ダイコンは本来強健な性質であり、土壌への適応性は広く、吸肥力が強いので、かなりのやせ地でも育ちます。しかし、根の肥大は急速なので、根形の形成には土壌条件が大きくかわってきまします。そのため畑の準備や施肥には、ほかの野菜よりも注意が必要です。

まず、畑には種まきの半月以上前に、全面に石灰をまき、30cmぐらいの深さまでよく耕しておきます。このとき、発芽後すぐに伸びだす幼根が素直に成長するように、前作の残さや木片、石ころなどの障害物をよく取り除きましょう。

元肥に未熟な堆肥(たいひ)を施すと、同じく根に障害が出やすくなります。野菜を作り続けている畑で、前作に堆肥が施してあれば、ダイコンには特に与えなくても大丈夫です。やせ地でどうしても与える必要があれば、全面に耕し込んだり、まき溝の下に入れたりせずに、種まきしたあとの株と株の間に、完熟堆肥と油かすを混ぜたものを半握りずつ置き、種と同時に覆土するのがよいでしょう。事前に鶏ふんも加えた、発酵済みのもの(ぼかし堆肥)なら申し分ありません。

種まきは、図のようによくわで浅くまき溝を作り、その中央に、株間の間隔に瓶底などで○印をつけ、その小溝に4~5粒ずつまくのがよいでしょう。1カ所にまとめて種を落とすと、くっつき合って発芽するので、間引きのときに残す株の根を傷めてしまう恐れがあります。面倒なようでも、ダイコンの種子は大きいので作業は案外楽にできます。

発芽したら、本葉が1枚開いたところに、1カ所3株を残してほかは間引きます(1回目の間引き)。このとき、図のように子葉(ふたば)の形に注意し、よく整った株を残すように心掛けます。

けましよう。形の悪いもの、異なるもの、不ぞろいのものなどは、根が障害を受けやすい可能性がある

## 「JA版農業電子図書館を」つかってみよう!!

当JAでは、病害虫や雑草、農業など生産に関する情報が簡単に検索できる、タッチパネル式の情報端末「JA版農業電子図書館」を窓口相談機能の充実と、迅速な指導や最新情報の提供等、組合員サービスの向上を図るため、営農施設に設置しています。

皆様のご利用をお待ちしております。

\*設置店舗：総合営農経済センター  
片貝営農センター  
千田園芸資材センター



病害虫・雑草診断など簡単に操作できます!!  
探したい項目を指でタッチ!!

からです。育つにつれてさらに間引き、本葉6~7枚ぐらいで一本立ちにします(図では3回目の間引き)。間引き時には追肥と土寄せも併せて行い、倒れないように支えます。

●板木利隆  
板木技術士事務所